

すっかんぽ

☆ 研究室だより No.13

1993年 6月号

NHK 青春牡丹燈籠

悲話

6月11日、NHKから、ハイビジョンドラマの撮影がようやく終了したことも知らせる手紙がとどいた。夏休みに放送される予定の「青春牡丹燈籠」(宮沢りえ主演)のロケが、大谷採石場で行われていたのだが、生きているカゲロウを撮影したいという要望があり、研究室総手で協力していたのである。ドラマの台本によれば、はかないものの象徴として、カゲロウを使いたいらしく、部屋のろうそくの炎にひかれて飛んできたカゲロウに火がつき、燃えてしまう、というシーンが撮りたいというのだ。しかも、大谷採石場の中は、冷蔵庫の中より温度が低い。カゲロウは、温度が低いと飛べないのである。

4月10日、くわしい説明をするために、NHKから、武田政剛さんという方がやってきた。武田さんは、まだ20代で、セールスマンからドラマ制作の仕事へ転職したようだ。しかし、いくらたのまれても撮影時間に合わせて、カゲロウを採集し、大谷まで運び、さらにろうそくに向かって飛ばせ、最後は、燃えてくれなど、無理な相談である。「死んだカゲロウの標本ならいくらでもありますよ。」と、最初は、そけない対応だったが、「撮影にも、ぜひ立ち合ってください。」の一言で考えがかわってきた。

撮影現場といえば、当然、宮沢りえもいる。そして、持ってきたカゲロウをめぐって、二言三言、言葉がかわされるはずである。確かに、難しい話ではあったが、カゲロウを保温しておくことも考えられる。次の瞬間、「やってみましょう。とりあえず、サンプル用に明日、カゲロウをとりに行ってきます。」と思わず強気な発言をしてしまっていた。研究室の中村教授

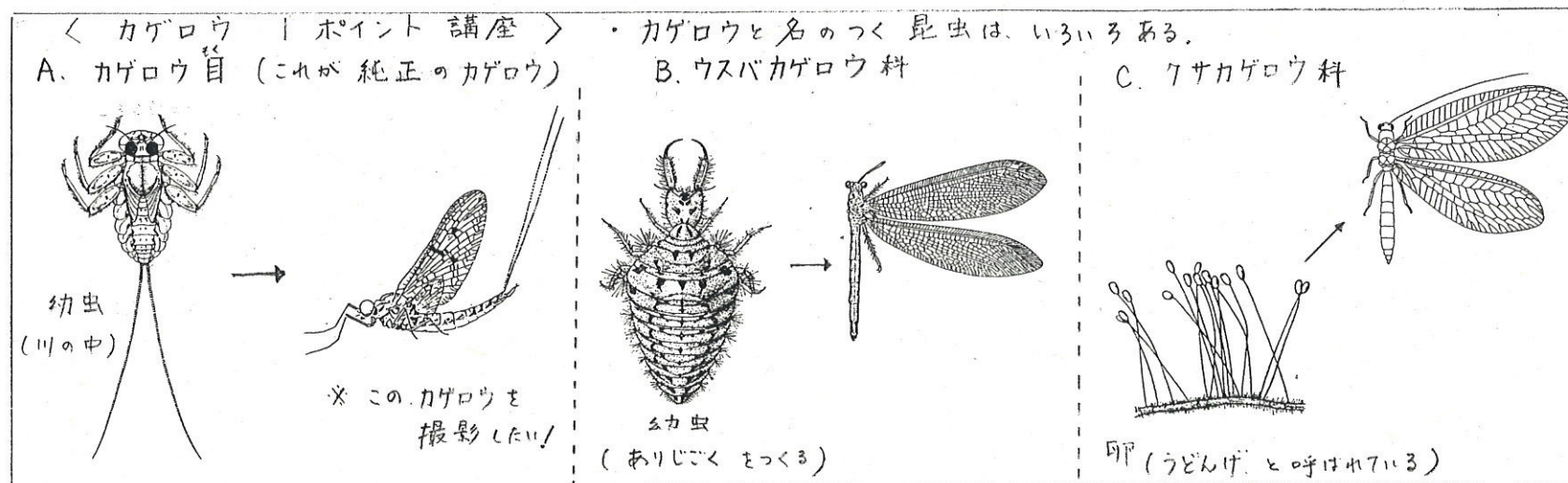
も、「青柳さん、できるだけことは、してや、て下さい。」と、妙に乗り気な様子である。かくして、我々は、カゲロウをめぐり大きな渦の中に巻きこまれていたのである。

台本の一部

ろうそく台の前で、かげろう太夫がうつ伏している。転がった盃の近くに、羽を焼いたかげろうが一匹、身をよじっている。
ぬと窓からお露が顔を出す。

S41

かげろう小屋



動物系統分類学7, 昆虫分類学 など (中山書店) (川島書店)

お露 今日……ここに来れませんが、あつたしを抱いて半分消したつもりですが、その半分は消えたのではない、あいつが吸ったんだ、ハハハハ。

かげろう お露か。

かげろう いつもいる素浪人は。

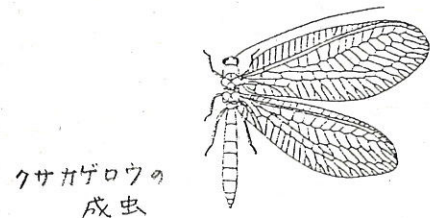
〇生きたかげろう一匹欲しい。
〇この辺はエルンストを参考にしたい。

{ お露 = 宮沢りえ
かげろう太夫 = 朝丘雪路

翌4月11日 矢板市の東古屋湖の近くで、サンプル用カゲロウを何種類か採集し、どの種類がいいか、そしてどのくらい生きているかを武田さんにチェックしてもらった。何とか使える見通しがたってきた。あとは、実際の撮影日時の連絡を待つだけだ。ところがいつまでたっても連絡がこない。そろそろ忘れかけていた4月24日の夜8時すぎ、突然武田さんから電話が入った。「明日の午後6時すぎに使いたいんですが、よろしくお願いします。」なにい。明日だとい。そんな急にいわれても困りまんがな。そう言いたいところだが、宮沢リエがさっと頭をよぎり「わかりました。6時までに大谷に持っていけばいいんですね。」とぐっとこらえた。

次の日は、研究室の学生たちと、採集に向かった。なるべく元気な状態を保つため、ぎりぎり間に合う時間帯まで採集を続けた。ホッと一息つき、武田さんを安心させてやろうと電話してみると、とてもない返事が返ってきたのだ。「実は、撮影がのびてしまて、カゲロウのシーンは夜の12時近くになりそうなんです。どうしますか？」どうしますかといわれても、困るのはこっちである。そんなにおそくまでは待てないので、とにかくカゲロウを届け、他のシーンの撮影現場を見せてもらおう、ということになった。

6時少し前に大谷の採石場に行くと、ちょっとヤンキー、ぼいNHKの関係者がガードをしていた。初めはうさんくさそうに我々をながめていたが、カゲロウを持ってきたことを話すと、無線でどこかへ連絡し、「車に乗って下さい。」と態度が急にいいになった。どうやら今は休憩時間で、スタッフの控えの家に案内してくれるようだった。



クサカゲロウの成虫

家にフくと、すぐに武田さんがでてきて撮影がおくれてしまったことも、すまなそうに、あやまってくれた。ところが、後からきた監督は、いかにも当然といった感じで「こくろうさん、今日は記者会見があるから、忙しいんですよ。」さあ帰、た帰、たといわんばかりなのである。現場を見せてくれる約束だったのに、

話がまるでちがっている。これじゃまるで子どものおっかいみにいじゃないの。ワシらをナメとるんか。と怒りが頂点に達しようとしていたその瞬間、玄関がガラガラと開いて、スタンバイした宮沢リエが現われたのだ。着物姿で、額に花びらみtainなのがついていた。

武田「リエちゃん、これがカゲロウだよ。」

リエ「あ、知ってる。この前、みせてもらったから。(4/11のサンプルカゲロウ)」

武田「こちらがカゲロウを採ってきてくれた青柳さんたちです」

リエ「あ、そうですか」

青柳「どうも、どうも」

武田「リエちゃん、そろそろ時間です」

青柳「じゃ、がんばってください。……」

そうして、宮沢リエ、御一行様は、マイクロバスで大谷石の穴蔵の中へ消えていたのであった。スタッフの一人に、カゲロウは直前まで温かくしてや、てくださいとい。念をおしてきたが、

まぬけなスタッフが、おき、はなしにし、撮影前に全滅してしまったそうである。そして、言うまでもなくカゲロウの撮影は、失敗に終わったのであった。我々の苦学、てい、たい……。

②③ 結局、カゲロウのシーンのみ撮り残し、東京のスタジオで別撮りすることになった。ただし、水生昆虫のカゲロウではなく、クサカゲロウ(左回)が使われたようだ。放送は、衛星第一が8/7と8/28の19:00~(再放送)NHK1チャンネルは8/21 22:00~の予定である。編集が難かしくて、まだ完全には終わっていないらしい。あまり期待しないでと、担当者から聞いておりました。